

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：62601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26590246

研究課題名（和文）ビッグ・ヒストリーに着目した歴史教育内容開発研究

研究課題名（英文）Research focusing on educational program about Big History

研究代表者

二井 正浩（Nii, Masahiro）

国立教育政策研究所・教育課程研究センター基礎研究部・総括研究官

研究者番号：20353378

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：現行の高等学校地理歴史科世界史の教育内容をグローバル化や持続可能性といった現代の諸課題に積極的に対応できるものにするため、D・クリスチャンが提唱する「ビッグヒストリープロジェクト」に着目し、データ収集・分析を行った。その結果、人間中心の歴史から、地球及び自然の一部としての人間を描く歴史への転換によって、グローバルで超国家史的な歴史、持続可能な地球について考察する歴史が描かれ、教育内容とされていることが明らかになった。また教育方法としては史資料の読み取りや議論・エッセイ作成などの重視が資質能力の育成に奏功していることも明らかになった。そして、この趣旨に則った授業の構想を試みた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to find the way for reformation of World History education at high school in Japan. In this study, we focused on "the Big History Project" which is proposed by Dr. David Christian. The project actively respond to today's issues such as globalization and sustainability. This study of "the Big History Project" reveals that human centered history is transforming into the one recognizing human as a part of the earth and nature. This would be exactly supernatural and sustainable education.

研究分野：社会科教育 歴史教育

キーワード：ビッグヒストリー グローバルヒストリー 世界史 統合科目

## 1. 研究開始当初の背景

(1)現在、ビッグ・ヒストリーは歴史学の世界史的な潮流のひとつになっている。このビッグ・ヒストリーに基づく歴史教育は、これまで研究代表者が主たる研究テーマとしてきたグローバル・ヒストリー教育の新動向でもあった。

(2)平成20年1月の中央教育審議会答申では、社会科・地理歴史科・公民科の改善の基本方針として「持続可能な社会の実現」が挙げられ、学習指導要領もその趣旨を受けて改訂されたが、ビッグ・ヒストリーは、その趣旨をより適切に実現するための貴重な視点を提供できると見込まれた。また、この答申には「地理歴史に関する総合的な科目の設置については、(中略)今後更に検討する必要がある」と明記されているが、このビッグ・ヒストリーに基づく歴史教育に着目することで、地理歴史科における総合科目の内容構成への具体的な示唆を得ることができると考えた。

## 2. 研究の目的

現行の高校地理歴史科世界史の教育内容を、グローバル化や持続可能性といった現代の諸問題に積極的に対応できるものにするため、歴史研究及び歴史教育研究の新潮流であるビッグ・ヒストリーに着目し、以下の三点を行う。

- (1)ビッグ・ヒストリーの代表的研究者の歴史の方法論を調査し、整理する。
- (2)代表的なビッグ・ヒストリー教育に関するカリキュラム・教材・授業を収集・分析し、その特長と課題を整理する。
- (3)日本で実施可能なビッグ・ヒストリー教育のモデルを作成し、その実践可能性を探る。

## 3. 研究の方法

- (1)ビッグ・ヒストリー研究の内容と方法論を整理するために、国内外の研究協力者との連携による情報収集を行う。
- (2)ビッグ・ヒストリー教育についての文献およびWebサイトを対象に、カリキュラム及び授業に関する情報を収集する。さらに、具体的な授業実践を録画するなどして情報の収集・分析を行う。
- (3)ビッグ・ヒストリーの視点を取り入れた歴史カリキュラム及び授業モデルを構想するとともに、地理歴史科における総合科目の内容構成にビッグ・ヒストリー教育の長所を生かす提言を行ない、社会に研究成果を発信する。

## 4. 研究成果

ビッグ・ヒストリー教育の代表的事例として、現在、特に影響力が大きいと考えられるものとして、D.クリスチャン(David Christian)が中心となって開発したビッグ・ヒストリー・プロジェクト(Big History

Project;BHPと示す)を主たる分析対象とし、検討を行った。BHPは、クリスチャンの取組にビル・ゲイツ(Bill Gates)財団がスポンサーとなった歴史教育プロジェクトで、Web上に教師や生徒用の資料や教材をそろえ、誰でも自由に使用できる教材として公開されている。このプロジェクトは2011年に開始され、現在ではカリフォルニア大学が、このコースで取得した高等学校の単位を従来の世界史の単位と認める決定を下したこともあり、2014年の秋には2500校あまりの高等学校でBHPが採用されたといわれ、また、オーストラリアでも200校以上の高等学校で採用された。現在も英語圏ではその実施が拡大している。

このBHPでは、導入(第1章)とまとめ(第10章)を除けば、全体構成がビッグバンから地球の誕生(第2章~第4章)、生命の誕生と進化(第5章)、人類の誕生(第6章)、歴史時代(第7章~第9章)となっており、人類の存在自体を宇宙や自然、環境などの一部として相対化する構成となっている。また、歴史時代は農業革命前後(前:第6章、後:第7章)、産業革命前後(前:第8章、後:第9章)に大きく区分されており、「集団的(集積的)学習(collective learning)」や「技術革新(innovation)」の用語も多用され、人類の歴史については、生産様式の変化に伴う社会・政治・経済の変化に着目した一種の発展史観として歴史を描く傾向が強い。特に18世紀の産業革命以降を、人間が地球の生態系や気候に大きな影響を及ぼすようになったとして地質時代の時代区分に擬えて「人新世(anthropocene)」と呼称し、人間が生態系の頂点に立った時代として位置づけている。そして、この「人新世」を扱う「第9章 飛躍」では、「人新世」を形成する経済・社会の変化として、まず産業革命と市民革命を総称した「近代革命」を扱い、その後、18世紀後半以降の現代世界の形成をエネルギー消費の拡大、ナショナリズムと帝国主義、グローバル化などの加速度的な変化とそれによって生じた課題について学習するものとなっている。これらのことから、BHPは人類を地球や自然の一部分、または構成要素としてとらえつつ、人類の地球や自然への影響力の拡大・支配の過程を描くものとなっており、「宇宙から見た」視点や「中心を設定しない歴史を描く」視点から語るものとなっていることが分かった。

また、「第9章 飛躍」を構成している単元「9.5 どのようにして現代世界が作られたか? ~現代国家とアイデンティティ」では、国民国家の成立と帝国主義、ナショナルアイデンティティの誕生とナショナリズム、そして、帝国主義と植民地建設、植民地の権利と抵抗について概観する構成となっており、国民国家は民主主義を標榜する革命の中から生まれ、経済力を高めた国民国家はやがて帝国主義の推進勢力となっていくというス

トリーがグローバルな視点から描かれていた。これは、現状の世界史教育のように個々の国民国家の政治史、国際関係史を詳細に扱うものとは大きく異なり、地球全体を単位としたグローバルな視点で描くことに成功していた。

さらに第 10 章ではエネルギー問題を中心に人類の課題を考察する内容になっている。こうした構成によって、生徒には人類の一員として人類の課題の解決に寄与しようとするグローバルアイデンティティとそれに基づくシティズンシップが培われる構成になっていた。

このような構成からも、BHP が超国家史的かつ持続可能性重視の歴史教育を実現していることが明確になったが、この BHP のアプローチを具体的に日本の歴史教育に生かす方策を検討するために、研究当初からの情報提供者であったマコーリー大学 (Macquarie University, オーストラリア) のビッグ・ヒストリー学部 (Big History Institute) 教授である D. クリスチャン氏と、歴史カリキュラム作成を担当する T. サリバン氏 (Tracy Sullivan) を訪ね、インタビューを実施した。このインタビューでクリスチャン氏は BHP が国や民族を越えた歴史学習として重要な意義を持つこと、大きな問いを設けて人文科学と自然科学の諸領域をつなげる歴史教育であること、コモン・ヒューマン・アイデンティティ (Common Human Identity) の形成をめざしていること、非英語圏への普及が課題になっていることなどを強調していた。また、サリバンとは BHP の非英語圏への普及が、各国独自のカリキュラムや受験システム、歴史教育の目的の違いによって阻まれている状況について意見を交換した。さらに、シドニー及びメルボルンの高等学校で実際の BHP に基づく授業も観察した。この観察から、BHP が教育内容だけでなく、教育方法についても日本の歴史教育と大きく異なることが明らかになった。具体的には史資料をもとにして考え、議論し、自らの考えを整理して文章としてまとめるというプロセスとして授業が構成されていた。

これらの調査からは、次期学習指導要領で歴史教育に求められる基礎力・思考力・実践力といった資質能力の育成について重要な示唆を得ることができた。史資料をもとにして考え、議論し、自らの考えを整理して文章としてまとめるというプロセスは、まさに資質能力が培われる構造になっていた。また、持続可能な社会の実現をめざす歴史教育、および日本史・世界史の枠を越えた歴史教育として、BHP からは今回の改訂で新設される高等学校の「歴史総合」の枠組みを構想する際の示唆も得ることが出来た。コモン・ヒューマン・アイデンティティの涵養をめざす歴史教育こそが、これらの課題を発展的に乗り越える鍵となるであろう。さらに、実際に授業を行った教師からは、ICT を重視している点、

およびエッセイの作成を重視しているという点で IB とのマッチングが非常に良いとのコメントも得た。日本では、手始めに IB を取り入れている学校の総合的な学習の時間で試行的に導入するのが現実的ではないかと考えている。

ただ、BHP の授業は Web 上から提供される史資料やデジタル教材を使用することが大前提となっており、クリスチャン自身も BHP のプログラムの自由な改変は許容しない姿勢である。その結果、授業の内容と方法はいささか固定的なものになっており、各学校や生徒の状況への柔軟な対応に乏しいように思われる。また、人間の歴史を「集団的 (集積的) 学習」や「技術革新」をキーワードにした一種の発展史観という巨大理論によって説明しようとしている点も、歴史解釈の多様性を生徒に保障するものになっていない。これらについては、部分的ではあるが、第 10 章で扱うエネルギー問題についての考察が示唆するように、未来に向けて人類が抱える課題の解決をテーマにした単元を生徒が設定し、史資料も必要に応じて教師や生徒が追加して授業を展開することによって、改善が図られるものと思われる。

今回の研究の成果を生かし、現在は、日本の実情に合わせた、日本版 BHP の構想を練っている。今回の研究で明らかになった BHP の課題をクリスチャンと相談していきながら、日本版 BHP の指導書を刊行する計画である。

## 5. 主な発表論文等

〔学位論文〕(計 1 件)

- ・二井正浩「グローバルヒストリー教育論研究 世界史教育の再構築」, 兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科, 2016

〔学会発表〕(計 2 件)

- ・二井正浩「歴史授業における問いと主権者育成に関する考察」全国社会科教育学会・社会系教科教育学会, 2016 年 10 月 9 日  
会場: 兵庫教育大学
- ・瀧野清「対話や学習者中心の授業を支える ESD」広島大学ユネスココンソーシアム ESD 研修会, 2016 年 8 月 5 日  
会場: 広島大学

〔図書〕(計 1 件)

- ・原田智仁, 關浩和, 二井正浩編著『教科教育学研究の可能性を求めて』風間書房, 2017 年 2 月 28 日 (二井正浩「-3 歴史教育と重層的アイデンティティの育成」 pp.95-104)

〔その他〕

- ・二井正浩「グローバルヒストリー教育論研究 世界史教育の再構築」は、<http://repository.hyogo-u.ac.jp/dspace/handle/10132/16174> に掲載。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

二井 正浩 (NII, Masahiro)  
国立教育政策研究所・教育課程研究センター・基礎研究部・総括研究官  
研究者番号：20353378

### (2) 研究分担者

大杉 昭英 (OOSUGI, Akihide)  
国立教育政策研究所・初等中等教育研究部・部長  
研究者番号：50353397

濱野 清 (HAMANO, Kiyosi)  
国立教育政策研究所・教育課程研究センター・研究開発部・教育課程調査官  
研究者番号：00562399

村瀬 正幸 (Murase, Masayuki)  
国立教育政策研究所・教育課程研究センター・研究開発部・教育課程調査官  
研究者番号：90641572